

名城大学農学部附属農場体験イベント&公開講演会

*農畜産物の販売はありません。

日時:11月11日(土) 10時30分~15時30分(10時開門-16時閉門)

場所:名城大学農学部附属農場

〒486-0804 愛知県春日井市鷹来町菱ヶ池 4311-2

アクセス MAP URL: <https://www.meijo-u.ac.jp/about/campus/farm.html> ←クリック

駐車場に限りがありますので、可能な限り公共交通機関でのご来場をお願いいたします。

お問い合わせ先:名城大学農学部附属農場 0568-81-2169

収穫体験では軍手をお持ちください!!



開催イベント

*農畜産物の販売はありません。



<農場体験イベント> *農作業が出来る服装と軍手を準備してお越しください。

体験イベント一覧(*受付にて申し込みをお願いします。)

・サトイモ収穫体験(1株300円(2株500円)、①11時~、②13時30分~、③14時30分~ 定員各回6組)

・パンジー・ピオラ収穫体験(参加費用:500円(12ポット)、

① 10時30分~、②11時30分~、③13時00分~ 定員各回15名)

・大根収穫体験(参加費用:100円、①10時30分~、②11時30分~ 定員各回8組)

・温州ミカン収穫体験(参加費用:200円、①10時30分~、②11時15分~、定員各回15袋)

・どんぐりつかみ取り(10時30分~15時30分)

・竹細工・わら細工展示(10時30分~15時30分)

・顕微鏡観察(10時30分~15時30分)

・農機具展示(10時30分~15時30分)



<フィールド生産科学研究室見学会(中高生向け)> (Google formによる事前申込)

10時30分~11時30分・本館2F 講義室2・定員45名(先着)

・詳細と申込 Google form URL: <https://forms.gle/gKXXStu6SQ6vEaNC7> ←クリック

(開かない場合はURLをコピーペーストしてください。) 申込QRコード



「名城大学農学部フィールド生産科学研究室は春日井キャンパスにある名城大学農学部附属農場に設置された研究室です。本年度11月11日に農場体験イベント&公開講演会が開かれる同日午前中高生を対象とした当研究室の見学会を実施いたします。ご興味がある方はぜひご参加をお願いします。」

中高生向け研究室見学会の概要

1)フィールド生産科学研究室の研究内容の説明(講義室)

2)研究圃場の見学

3)研究室内の見学

<公開講演会「バラ科果実の品種育成と栽培を楽しむ」> (Google formによる事前申込)

13時30分~15時30分・本館2F 講義室1・定員80名(先着) 中学生以上向け

・詳細と申込 Google form URL: <https://forms.gle/92cS83MWrtBnzuYj8> ←クリック

(開かない場合はURLをコピーペーストしてください。) 申込QRコード



↓↓↓講演会チラシはこちら↓↓↓

2023年度 名城大学農学部附属農場公開講演会



バラ科果実の品種育成と栽培を楽しむ

ともにバラ科に属するイチゴとリンゴですが、実は産地ごとに精力的な品種育成や生産技術開発が行われてきたという共通点も持ちます。本講座では、イチゴの収穫期間を延ばす生産技術や果実の中まで赤いリンゴ品種の育成過程などについて、科学の視点も取り入れて解説します。

<講演1>

赤果肉リンゴの効率的育種と多様性

松本省吾先生
名古屋大学名誉教授



<講演内容>

リンゴ果実内部(果肉)は白もしくは淡黄色ですが、果肉部分に抗酸化作用を有するアントシアニンが蓄積することにより果肉が赤色となる品種が育成されています。ここでは、自家不和合性を利用した赤果肉リンゴの効率的育種法を解説するとともに、果肉赤着色の責任遺伝子 *MdMYB110a* の単離と赤果肉形質早期判定 DNA マーカーの開発について紹介します。また、品種ごとにアントシアニンに加えてカフェイン酸、プロシアニジン B2、カテキン、エピカテキンなどの多様な有効成分が異なる割合で含まれていることや果肉が赤く着色する原因についても紹介します。

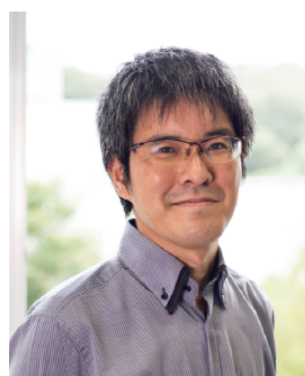
<プロフィール>

岐阜大学大学院農学研究科修士課程を修了後、1990年に名古屋大学理学研究科にて理学博士取得。その後、岩手大学農学部助手、岐阜大学教育学部助教授を経て、2009年に名古屋大学大学院生命農学研究科に教授として着任し、2023年定年退職。現在、名古屋大学名誉教授、中部大学客員教授。

<講演2>

イチゴの開花時期の見分け方・操り方

太田垣駿吾先生
名城大学農学部准教授



<講演内容>

日本のクリスマスでみられる定番の光景の1つに、イチゴの入ったケーキをクリスマスイブに食べる、というものがあると思います。しかしながら、イチゴは日が短くなって気温も下がらないと花芽が形成されないため、日本では露地でイチゴを育てても5月頃にしか収穫できません。また、ただハウス内でイチゴを栽培するだけでもやはりクリスマスの時期にイチゴを収穫することはできません。今回の講座では、日の長さや温度といった環境がどのようにイチゴの花芽分化に影響を与えるのか、さらにイチゴの出荷時期をクリスマスシーズンまで前倒しするためにどのような栽培技術が用いられているのかを解説します。また、私の研究室で開発に取り組んでいるイチゴ苗の新規花芽分化判定技術についてもご紹介できればと思います。

<プロフィール>

2010年に北海道大学大学院農学院生物資源科学専攻博士後期課程を修了し、博士(農学)を取得。国立遺伝学研究所特任研究員を経て、2012年に名古屋大学大学院生命農学研究科に助教として着任。その後、2022年より名城大学農学部准教授に着任し、現在に至る。現在はイチゴやバラ、トマトなどの園芸植物を対象に、分子生物学や遺伝学の視点からそれぞれの植物の持つ個性に迫る研究を行っている。



日時 令和5年11月11日(土) 13:30~15:30

場所 名城大学 春日井(鷹来)キャンパス 農学部附属農場
本館2階 講義室1

アクセス <https://www.meijo-u.ac.jp/about/campus/farm.html>

定員 80名(右記QRコードGoogle Formより先着受付)



<申し込み受付QRコード>

主催 名城大学農学部附属農場 春日井市鷹来町菱ヶ池 4311-2

お問合せ 0568-81-2169